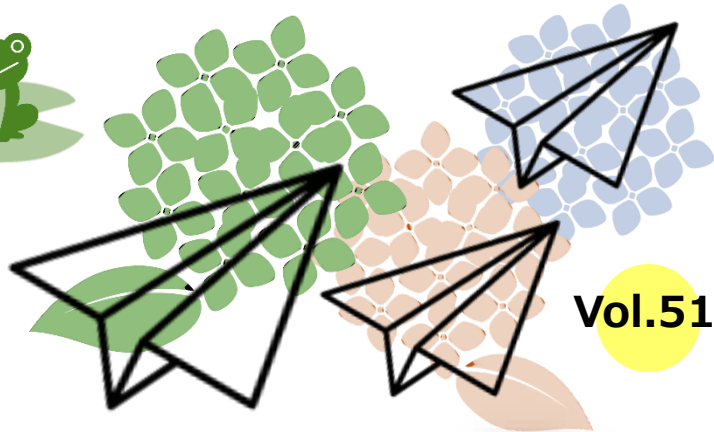


B-GROOW

NewsLetter



Vol.51

Message From SORA

B-GROOW (ビーグロー) の空でございます。

梅雨入りを前に、木々の緑がいっそう深まってまいりました。

6月は水の月という意味の『水無月』という和風月名がありますが、その他にも青葉が茂る水の月を表す『青水無月(あおみなづき)』、涼風を待つ(松)『松風月(まつかぜつき)』、夕暮れの涼しさを表した『涼暮月(すずくれづき)』、撫子(古名を常夏といいます)の花盛りを表す『常夏月(とこなづき)』など10以上も異名があるそうです。どの異名も美しい響きを持っていて、雨が多く過ごしづらい季節の鬱々しさも少し晴れる気がします。

早いもので一年の折り返しも目前ですね。目標に向け、日々邁進してまいりましょう。



空直美

階層別研修を考える

変化の非常に激しい時代である今、人材育成の必要性が高まっているといえます。今回は階層別研修について、メリットや実施の際のポイントについて考察します。

■ 階層別教育のメリットとは

階層別研修とは、「新入社員」「若手社員」「中堅社員」「管理職」などの階層ごとに実施する研修をいいます。階層別研修のメリットとして、以下のようなものが挙げられます。

□ 求められる役割・能力の理解ができる

階層別に研修を実施することで、今の階層で自身に求められる役割や能力について、理解ができるという効果があります。

□ その時点で必要な学びを得られる

組織において社員に求められる役割や能力は、経験年数や業務内容の変化などによって絶えず変わっていくものです。そのため、階層に応じた研修の実施は、その時点で必要な学びを得られるというメリットがあります。

□ 自己啓発意欲が促進される

能力開発の基本は、「自己啓発」です。階層別研修では、必要な学びそのものだけでなく、その学びを得ることの重要性や学ぶ方法について知ることができます。この知見が、研修後に自主的に能力開発などに取り組む際の助けとなり、自己啓発意欲が促進されることにつながります。

■ 階層別研修実施のポイント

教育・研修は、組織の経営戦略に沿って行われることが大原則です。その視点が欠け、その場の思い付きなどで実施すると、上記のメリットを得ることも難しくなってしまいます。階層別研修は右記のような流れで実施します。

階層別研修実施の流れ

組織の経営戦略・人材育成方針を再確認する

階層を分け、階層別に求められる役割と能力を定義する

「現状」と「目指す姿」を把握し、ギャップを明確にする

ギャップを埋めるための研修内容を検討・決定する

研修実施と振り返り(効果測定)

このように、会社の方針を確認したうえで階層別に求められる役割と能力を定義し、目指す姿を定めることが重要です。

また、研修は上位の階層から順に実施することが望ましいです。これは上位の階層が研修内容について認識していないという事象を避けるためです。その他にも、階層別研修実施の際には以下のようなポイントを確認する必要があります。

階層別研修の実施において確認したいポイント	
1	経営理念やトップの示す人材育成方針を具体化したものか。
2	能力開発の基本は自己啓発であることを認識し、自己啓発意欲を促進し、能力向上の動機づけができるものとなっているか。
3	OJTの人材育成計画との整合性はあるか。
4	それぞれの研修目的を明確にし、他の研修との関連づけを明確にしているか。
5	組織や人事制度との関連づけができているか。
6	一貫した階層別コースが設定してあるか。
7	職種別に専門知識や技術を与えることができる内容になっているか。
8	職場の教育ニーズを反映したものであるか。
9	個人別のキャリア形成プランを盛り込んでいるか。
10	組織全体のレベルアップを意識しているか。

■ おわりに

階層別研修は、組織の目指す方向性を示し、階層別に求められる役割と能力を定義し、研修の目的を明確に示すことが大切です。研修の形骸化を防ぐとともに、組織の一体感も醸成します。会社の更なる成長のため、階層別研修の実施を検討してみたいかがでしょうか。(アソシエイトコンサルタント 平田千佳)



レジリエンスについて

VUCAの時代と言われる昨今、逆境に置かれる、トラブルに見舞われるなど強いストレスを感じる機会が増加しています。そのため、自分にかかるリスクを軽減し自分で自分の心を守る「心のリスクマネジメント」が求められています。

■ レジリエンスとは

心を「ストレス」状況から回復させることを『レジリエンス』といいます。レジリエンスはストレスを軽減するだけでなくさらに良い状態まで心を回復させる力を指します。

■ レジリエンスを高める目的

レジリエンスを高めることは、心の筋肉トレーニングにあたります。困難や大きな壁に直面した時、レジリエンスで乗り越え、仕事の成長・成果に繋げ、夢を実現し理想の自分になるために一歩ずつ進んでいくことが目的になります。

■ レジリエンスを高める3つの柱

レジリエンスを高めるために柱となる3つの力があります。

1. 基礎力

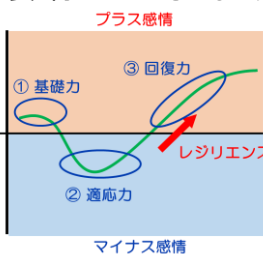
心の栄養をとり、柔軟性を養う力です。「楽しい」「嬉しい」などのプラス感情で心を満たします。普段から小さなストレスを受け心に適度な負荷を与え続け、心の筋肉を強くしていきます。

2. 適応力

衝撃を受け止め、心を切り替える力です。基礎力で培った心の筋肉を使い、ストレスを受けとめます。ストレス自体を分析し不安や恐れが何なのかを把握することがポイントです。そして、マイナス感情からプラス感情へと心の方向転換をします。

3. 回復力

使い切った心の筋肉に十分栄養を与え、より強い心の筋肉に修復する力です。ストレスに対応した経験を通して自分の成長・得たものを認識します。乗り越えたことの意味づけが心をプラス感情で満たし、次の大きなストレスに備える心の筋力を育みます。この時、経験を感覚的に終わらせず言葉で表し自覚するようにします。自分の強さを実感することが、自己肯定感や自己効力感に繋がります。



■ おわりに

レジリエンスを高めることは、自分の心を守る方法を身に付け、ストレスに対処しながら心を強くできるため、幸せに働くことに繋がります。レジリエンスを高める基礎力・適応力・回復力を強化してみたいかがでしょうか。(コンサルティングアシスタント 香月裕美)

株式会社 B-GROOW

〒813-0017

福岡県福岡市東区香椎照葉3-3-1-2825

TEL 092-405-2769 FAX 092-405-3579

株式会社B-GROOWの オーダーメイド階層別研修

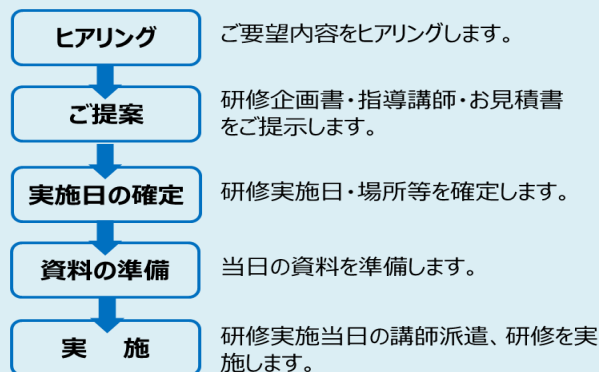


株式会社B-GROOWでは各社の課題や目的に応じた教育・研修プログラムを実施しております。事前ヒアリングを通して社員ひとりひとりの『気づき』と『行動変革』を促すプログラムをご提案します。

階層別研修のB-GROOW



オーダーメイド研修策定の流れ



研修実施をご検討の際は、弊社連絡先までお問い合わせください。【担当：平田】

編集後記

『筋トレ』の起源は古代エジプトまで遡ります。紀元前600年頃、古代オリンピックのレスリングで6連覇したミロンは毎日仔牛を担いで1km歩き筋肉を鍛えたそうです。ミロンの筋トレが「漸進性過負荷の原則」(仔牛が成長とともに大きく重くなる)や、「継続性の原則」(毎日行う)に則っていることに驚きます。心身ともに筋トレで強くしていきたいものです。

(編集担当 香月裕美)

Mail sora@b-grow.comHP <https://www.b-grow.com>